

洋書輸入協会会報

VOL. 2

NO. 1

昭和43年1月

あけましておめでとうございます

理事会報告

12月11日（月）

関西支部より申請の京都、至誠堂、入会の件は再調査の要あり。一時保留と決定す。

バーガモン社の電報の件につき Discount は更に交渉するも Deadline は1月31日迄の旨、会員に連絡の件承認。

小額本（Paperback）に関する委員会12月12日開催を承認（JBIA. No. 23 にて速報済）

12月26日（火）

バーガモン社返電の件につき討議、種々の情况分析より Accept も止むを得ずと判断し、その旨返事と共に会員に速報することを決定（JBIA. No. 24 にて速報済）

新年会開催を文化厚生委員会付託を承認

お知らせ

経営委員会編集の Agent List 発刊しましたので無料分2冊、出先会員1冊を会報8号と共にのお送り致しました。追加（有料）ご希望のむきは事務局にお申し願います。

関西支部だより

12月例会は恒例により中止。新年は1月12日新年会を兼ね例会を行う予定。

12月16日 協同カタログ打合せ会。

12月19日 役員会 和田支部長（旭屋）はじめ6社出席、本年度役員の方々による活動の労をねぎらい、しめくくりの会を開催。（川畑記）

新年会の開催

すでにお知らせ致しました新年会、1月10日都市センターホテルに於て35社53名のご出席を得て盛大に開催。歓談の後午後8時散会しました。



新年会風景

ポンド切り下げと日本経済への影響について 講演会ひらく

今回のポンド切り下げは、我々洋書輸入業界にも各種の影響をもたらしています。しかも、ポンド切下げ後は金戦争、ドル危機の進行、マルクの切り上げ、或はポンド再切り下げの声など、世界経済は激動と不安の様相を呈しています。こうした世界経済の動きを迅速・的確につかむため、さる12月16日、日本銀行の吉野俊彦調査局長を招き、「ポンド切り下げと日本経済への影響」についてお話を伺いました。講演会は中央区室町の油脂工業会館で催され、会員各社から60余名が出席、ユーモアを交えた講師のお話を熱心に聴きました。

講演会は、午後2時15分に開かれ、まず、石内茂吉経営委員長（東光堂書店社長）が開会のあいさつにたち「こんどのポンド切り下げで、業界でも円との換算率などいろいろの問題が起きているし、来年の見通しについても関心をもたれています。協会ではこれらの問題について研究会を開こうとしたところ、講師として最適任の吉野経済学博士をお願いできました。ぜひ有効な会に終わらせたいものです。」とのべられました。

講演は1時間15分におよび、デバリュエーションの理論的意義からはじまり、ポンド切り下げ、金戦争、ドル危機など、激動を続ける世界経済の核心にふれる有意義なものでした。講師はとくに、世界を不安におとしめているドル危機の問題について「米国が更に金利を上げるかどうかは、直ちに日本の経済に影響するものである。そして之は米国の決意如何による。それを端的に言えば米国がベトナム戦争を更にエスカレートするか、或は休戦の方向にもっていくか大きな要因となる。」と強調されました。

会は最後に石内経営委員長が「きょうは有意義なお話を聞くことができ、みなさんいろいろな参考になったことと思います。協会では今後もこうした企画をもちたいと考えています。」とあいさつをのべ、午後3時半に閉会しました。

（講演要旨）

＜ショックを受けた日本経済＞

イギリス政府はさる11月18日、ポンドの対ドル・レートは14.3パーセント切り下げ、財政・金融面でデフレ政策を決定しました。同時に公定歩合を現行の6.5パーセントから8パーセントに引き上げました。こんな高い金利は文明国としては常軌以上のものです。ついで、アメリカ、カナダなどで金利の引き上げの連鎖反応が生じました。日本の経済界は大きなショックを受け、兜町では暴落現象が起きました。ヨーロッパでは金の買い入れ、マルク買いがおこなわれ、ドルを売る現象が起きている。最近では、切り下げられたポンドのレートが維持できるかどうか懸念されています。

＜英の独占商品の値下がり期待薄＞

デバリュエーションとは、ある一国の通貨単位で買う金の量を減らすことを意味します。イギリス商品のポンド建てが同値であれば、その商品の輸出価格は安くなり、従ってイギリスは輸出がやりやすくなり、輸入は高くなるので抑えられることになります。逆に日本にとっては対英輸出がやりにくくなるわけです。このように、デバリュエーションは一国の輸出入がアンバランスになったときにとる措置です。

しかし、ポンド切り下げによって、今後、イギリスからの輸入商品はすべて下がると思われるのは間違いです。切り下げ分だけ商品のポンド建値を上げることがあり得るからです。たとえば、スコッチ・ウイスキーなどのように、イギリスの供給独占商品は下がらないだろうし、国際的に競争の激しい商品、たとえば自動車などは下がるでしょう。オーストラリアはポンド切り下げに追随しなかったため、英国にとって輸入価格は逆に高くなり、従って高い原料を

つかった洋服生地は安く輸出できる筈がありません。然し、日本が輸入するばあい、イギリスの独占商品でないものは安くなるでしょう。一方、日本からの輸出では、たとえば、ミカンの缶詰などは売行きが悪くなるでしょう。自転車などもそうです。

＜深刻なイギリス経済＞

イギリスは1949年に30.5パーセントのポンド切り下げをしましたが、その後18年間のイギリスとアメリカの卸売物価をくらべると、イギリスはアメリカより3割ほど高くなっています。つまり、イギリスの商品はアメリカのそれにくらべ3割高いわけです。このため輸出が伸びず、国際収支の悪化をもたらしました。最近の貿易収支をみると、7月は4,000万ポンド、8月8,000万ポンド、9月は1億ポンドの赤字を示し、10月には1億6,000万ポンドの赤字を記録しました。

一方、イングランド銀行は各国からぼう大な借金をしており、その返済のため、さらに借金を要請しています。スイスのバーゼル会議で、フランス代表は「外科手術を必要とする病人が手術をいやがり、マヒ剤をぬって一時しのぎするやり方では駄目だ」と、イギリスの態度に強い反対を表明しました。イギリス代表は会議後の記者会見で、「借金は返えせそうにない」と悲観的な意見をのべました。

さらに、ポンドの先行にたいする不安から、ポンドの直物相場と先物相場の差が開きすぎました。先行が細っているのです。

では、イギリス商品はなぜこのように割高になったのでしょうか。イギリスでは第3次産業に人が集中し、農村人口は4割を割る状態です。工業部門は人手不足です。社会主義政策のためゆりかごから墓場までの社会保障のため、

人びとには貯蓄意欲が全くありません。英国民の貯蓄は文明国の中で異常に少いのです。他に趣味がないので、自殺がふえ、悪徳がはびこる状態。どうも、人間はあるていど貧乏のほうが良いのかも知れませんね……。

イギリスはこのような病根をもっているの、私たちは、イギリス経済の成行きには充分注意する必要があります。ポンドの再切り下げがあるかもしれません。

＜ドルの地位弱まる＞

ポンドの切り下げを3割にしないで、半分にとどめたのは、世界経済の危機を防ぐためにも考慮されたようです。ドルに対する不安があるので、アメリカはドル防衛政策をとっています。ドルの地位は18年前にくらべ、慢性的な国際収支の赤字のため、ひじょうに弱まっています。ポンドを3割切り下げたら、ドルも必然的に切り下げねばならず、ドルが下があれば、世界のすべての国が切り下げに追隨することになり、世界経済は大混乱におちいります。そのためポンドの切り下げを14.3パーセントにとどめたわけですが

したがってこのような切り下げ不足では、イギリス経済は立直ることはできません。このため、イギリス当局は財政、金融の引締め政策をとり、公定歩合を6.5パーセントから8パーセントへ引き上げました。アメリカは、イギリスの金利との差が4パーセントも開いたので、金利を4.5パーセントに引き上げました。

このアメリカの金利引き上げの日本経済に対する影響は、ポンド切り下げそのものより大きいと言えます。兜町はアメリカの金利引き上げで混乱におちいりました。アメリカの金利が上がると、アメリカの景気の回復はおくれます。ということは、世界の貿易の伸びが悪くなることであり、日本の輸出は困難になります。また、アメリカからの長期・短期の借金も困難になります。現在の4.5パーセントならまだよいとしても、こんご更に上がると大変なことになります。

＜ドルの切り下げはないであろう＞

では一体、アメリカの金利は之以上上がるでしょうか。それは、アメリカの決意如何です。つまり、ベトナム戦争を続けるか、それともやめるかにかかっています。これ以上エスカレートして、国際収支がいつそう悪化すると金利は上がるし、戦争をやめれば下がります。もし、ベトナム

戦争を続けるばあいには、増税でもしなければ政府財政はやっつけられません。増税をもしないならば、金利は上がらざるを得ません。私の見通しとしては、増税は結局可決されると思います。

ここで注意すべきことは、一口に同じ危機といってもポンド危機とドル危機はその性質が根本的に違います。ドル危機は欧州各国に対する援助、ベトナム戦争その他でドルをばらまいていることから起きています。即ち英国は本質的に貿易がアンバランスなのです。輸入が大幅に輸出を上廻っているわけです。米国は本質的には輸出超過と貿易収支は黒字なのです。たゞ現在ドルを対外援助で使いすぎているわけです。私はドル危機は乗り切れると思うし、切り下げは避けようと思います。しかし、それにはドル防衛の強化が必要だし、それなくしては切り下げを防止できません。そしてこのドル防衛の強化は日本にも大きな影響をあたえます。之は来春迄に迫ってくると思われれます。

＜マルクについては充分注意を＞

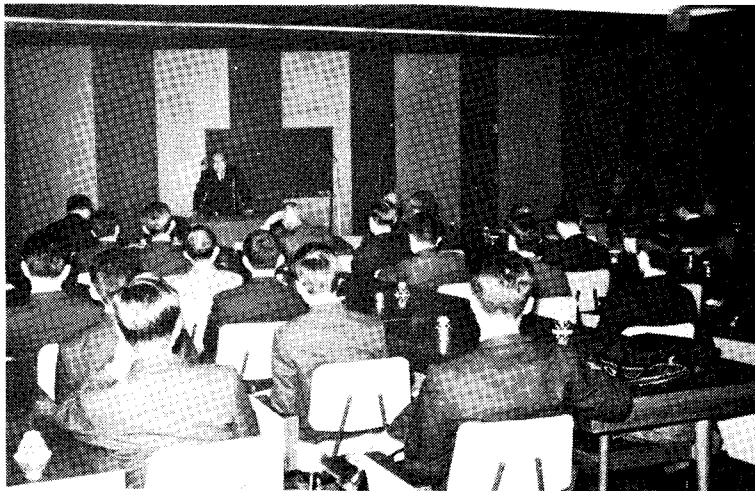
現在ドル不安から、ドルをもっているより金かマルクをもっているほうが安心なようです。ドイツの商品は世界にはらんしており、ドイツの国際収支は黒字です。マルクの切り上げはあるかもしれません。マルクの相場と金の相場には毎日注目する必要があります。

＜深刻な国際環境に警戒を＞

いま、ポンド再切り下げの不安が生じています。14.3パーセントの切り下げはなまぬるいものでした。11月の国際収支は改善どころでか、2億1,000万ポンドの赤字に達しています。

イギリスの8パーセントの公定歩合は下がるかも知れません。木曜日の晩は注意が必要です。イングランド銀行の重役会議は木曜日に開かれるので、イギリスの金利が動くのは木曜日の晩だからです。ドイツも木曜日だが、これは隔週です。アメリカは一定しないが、火曜日は注意したほうがよいようです。

イギリスが8パーセントの金利を下げないと、アメリカは金利を更に上げるかも知れません。ドルは大丈夫だとは思いますが、確言はできません。日本の国際収支を取り巻く環境は深刻であり、充分な警戒が必要です。（文責在記者・東光堂書店川越）



講演会風景

新 春 放 談

1 ドル は 360 円 で は な い

洋 版 ・ 渡 辺

新年早々1ドルは360円ではないという変な題をつけて恐縮だが、実際1ドルは360円ではないのだ。3円60銭なのである。戦前は大体1ドル2円位が常織であったが、現在も3円60銭がほんとうの姿なのだ。というのは現在銭というお金が事実上存在していないからだ。たゞ、計算上あるのみだ。たとえば、私の会社でTIMEとかNEWSWEEKを各書店に納めている。両誌は定価が120円である。これを原則として7.8掛で納めている。8掛でいいのだけれど、何しろサービス精神旺盛な洋販だから2パーセント無理して7.8掛にしているわけだ。すると1冊93円60銭となる。本屋さんに93円60銭下さいといっても60銭というお金がないのだ。誠にへんちくりんな話である。世界中に実際存在していない貨幣を名称だけ残している国があるだろうか。これを要するに我々が100円といっているお金は事実1円なのだ。即ち100円を1円にDenominateしてしまえば大変簡単なわけである。ところが、現実でデノミネーションしたらどうであろう。日本経済は混乱してしまうに

違いない。Devaluationと感違いして大騒ぎが起る。買いためをする人が現われ、諸物価は直ちに上るであろう。レフティな連中はここぞと流言飛語をとばすであろう。これでは困る。理論と実際は違うからだ。人間がhuman beingである限り、心理が働き、感情が入るからだ。

そこで私は提案する。新しい貨幣単位の呼称を増やすことである。即ち100円を一両と呼称することだ。100円といってもよいし1両といってもいいのだ。2万8千円といってもよいし280両といってもよい。1000円札は10両紙幣にする。1万円などというみっともないお札は止めて100両紙幣にするのだ。対米為替は3両60円である。もう、銭とか厘とかは歴史的なものとするべしである。銀行金利2銭とは一体あれはなんですか。1銭8厘は安いですねというが、今の若い人にピンとくるのかしら。生まれてから見た事もないお化けの貨幣呼称単位を使わず、パーセントにすべきである。新春放談を一つ書いて見ました。

会 員 紹 介

郁文堂出版有限会社

現在、同社はドイツ語教科書の出版と関連して、ドイツ文学・語学関係の洋書輸入専門店として発展を期しているが、取扱専門の分野に限っていえば、ようやく最近東京で一番在庫が豊富であると、顧客に喜ばれるようになってきたようだ。

同社は現在主としてドイツ語教科書・参考書出版を主な業務としているが、元々は明治32年に現在の社屋の向い側、即ち東大正門の並びにあたる所に古本屋として出発した。新刊書・古書の他に洋書を専門に取扱うようになり、その洋書部は大正年間から昭和にかけて、丸善・三越洋書部と並んで、その実力を買われたものだそうだ。

但し、この洋書部は依然として古本を主として扱い、こうした状態は第二次世界大戦があったにせよ、ともかく終戦迄続いていた。戦後は社会情勢の落ち着きに伴って出版も盛んになり、それに伴って昭和25年頃から、輸入を再開し始めて今日に至っている。

なお、郁文堂ゲルマニスティク（1967年刊）は、同社の専門カタログである。

洋書こぼれ話

明治回顧 (五)

福本初太郎

外来思想とベストセラー (2)

前回に明治大正期のベストセラーのうち、「キリスト教」関係のを本を書きましたので、順序として今回は社会主義（共産主義を含む）と資本主義の文献を書く予定でしたが、突然明治時代のベストセラーに関するジンクスを思い出し、忘れないうちに記しましたので、ベストセラーの文献を次回（6号）にまわすことにいたします。これは、どこまでも私個人の感じから書いたものですから、そのおつもりでお読み願います。

さて、欧米の著名な学者が屢々日本に来訪されると、宗教・哲学・思想方面の著者に限り、来訪を境として、その著書の売行きが落ちるというジンクスがあるのです。面白いことに、理工学・医学、それから小説・戯曲・音楽方面の著者は、このジンクスに該当しません。これは何故でしょうか。私が考えますのに、我が国の読者が、宗教・哲学・思想方面の著書を読んでいるうちに、著者に対する一つの人格的イメージが心の中に構成されるからでしょう。例えば、立派な宗教家の著書を読んでいるうち、著者を神の使者であるようなイメージ・錯覚を抱くようになるのでしょう。ところが、その著者が一旦日本に来訪され、講演を開いたり、話をしてみると、御本人は案外平凡な一般の人間とどこも変わったところはない。それは当り前のことで、外貌に変わったところがあつたらそれこそ大変でしょう。そこで、来訪を期待していた人達は、従来のイメージが破壊されてしまい、著書の売行きに影響してくるのではないかと思います。

私は、この最も著しい例として、大正2年に初めて（その後2回程）日本を来訪されたラビンドラナート・タゴール師を挙げておきましょう。この人は御承知のように、思想家で詩人で音楽家で、ノーベル文学賞まで受けた偉大な平和論者です。当時のベストセラーの中には、この人の抒情詩 *The Crescent moon* や、*Gitanjali*, *The Gardener*, 戯曲では *Sengāsi* や *Chitrangada*, *The Post Office*, 小説では *Gora*, エッセイでは、*The Realisation of Life* や *Sadhana*, *The Religion of Man* などがあり、随分広く読まれましたが、前述のように、我が国来訪以来その部数は激減してしまいました。

これと対照的な例は、大正11年に来訪されたドイツの理論物理学の泰斗アルベルト・アインシュタイン博士です。博士の著書は相当の数がありますが、なかでも *Die Grundlagen der allgemeinen Relativitätstheorie* と *Über die spezifische und allgemeine Relativitätstheorie* が最も広く読まれました。石原純先生が通訳をしながら、博士は各地で講演をされ、私もその年の秋神戸役所の公会堂で博士の講演を聞きました。上記の二著は、いずれも当時のベストセラーでしたが、むろん文芸書程の部数が読まれたわけではありません。しかし博士の帰国後も引続いて随分売れました。これは、この著者に対し、日本人が人格的のイメージを感じていなかったからでしょう。

又、小説・戯曲・音楽方面の著書もあり来訪後の売行きに影響はありません。というのは、作家自身に対するイメージよりも作品の内容による興味に重点をおいて読まれているからでしょう。

最後にドイツの哲学者ルードルフ・オイケンのことを書いておきましょう。オイケンの著書も随分読まれました。恰度明治時代に勃興した理想主義にマッチしたというよりも、前々号に書いた自然主義作品に対して起った文芸方面の「白樺派」の作品のように、思想界においても広く読まれたのでしょう。先年亡くなられた安倍能成先生の訳した「大思想家の人性観」は相当数読まれました。その外 *Die Lebensanschauungen der grossen Denker* や *Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt*, *Der Wahrheitsgehalt der Religion*, *Sinn und Wert des Lebens*, *Geistige Strömungen der Gegenwart*, *Erkennen und Leben* や *Lebenserinnerungen* などはいずれも当時のベストセラーです。私は時々波多野精一先生から何かの御事情で、オイケン博士宛の手紙の投函を頼られました。

曾て、ドイツ留学中にオイケン博士に師事した日本の学者の懸請をいれて、博士が訪日を決意したことがあったのですが、時恰も第一次世界大戦が勃発し、日独が交戦する羽目にたちいたった時、オイケン博士は「思知らずの日本などへ行かぬ」と云われて、折角の訪日が中止になったという話を聞いたことがありました。結果からみて、オイケン博士の著書は、ジンクスから除外された訳です。

海外ニュース

米国出版社の経営規模

宮田昇氏によれば、下記のとおりである。（「みすず」103号）

オ1表は、「フォーチュン」誌調査による1966年の米国の産業売上げ500位の表から、それに名をつらねている出版社の分のみを取りだしたものである。

オ 1 表

順位	社 名	売上高 (\$1,000)	日本円換算 (億円)	純 益 (\$1,000)	日本円換算 (億円)	自己資本 (\$1,000)	日本円換算 (億円)	資 産 (\$1,000)	日本円換算 (億円)	従業員数 (人)
151	TIME INC.	503,060	(1,811)	37,253	(134.1)	183,866	(661)	406,543	(1,463)	9,100
255	McGRAW-HILL	307,606	(1,107)	28,579	(102.8)	126,639	(455)	226,432	(815)	11,420
356	McCALL	194,565	(700)	6,609	(23.7)	52,124	(187)	149,192	(537)	10,961
428	GROLIER	152,371	(548)	10,230	(36.8)	70,526	(253)	207,497	(746)	9,500
436	CROWELL COLLIER & MACMILLAN	148,903	(536)	17,840	(64.2)	90,784	(326)	169,366	(609)	5,000
443	WESTERN PUBLISHING	146,486	(527)	6,919	(24.7)	74,749	(269)	104,149	(374)	5,817
500	CURTIS PUBLISHING	128,897	(454)	347	(1.3)	21,526	(77)	94,555	(340)	6,051

オ2表は、そのほかの出版社について、1966年の実績をしめすもので、株式市場に公表されている出版社のなかから、日本でもなじみの深いところが選10社びだされている。

オ 2 表

社 名	売上高 (\$1,000)	日本円換算 (億円)	純 益 (\$1,000)	日本円換算 (億円)
MEREDITH	110,357	(397)	6,690	(24.0)
PRENTICE HALL	83,904	(302)	11,545	(41.5)
HOLT, RINEHART & WINSTON	70,249	(253)	6,626	(22.8)
HARCOURT	65,010	(234)	7,391	(26.6)
SCOTT, FORESMAN	58,467	(210)	6,472	(23.2)
HARPER & ROW	49,917	(179)	2,071	(7.4)
GROSSET & DUNLAP	34,524	(124)	2,038	(7.3)
BOOK-OF-THE-MONTE CLUB	33,919	(122)	2,213	(7.9)
SIMON & SCHUSTER	23,932	(118)	1,313	(4.7)
JOHN WILEY	25,529	(91)	1,618	(5.8)

(極東書店提供)

会 員 紹 介

医歯薬出版株式会社 洋書部

一歯科医であった今田見信氏（現社長）が大正10年12月に個人で「歯苑社」を創立され、その後いくたびかの変遷を経て、医歯薬出版株式会社を昭和26年8月に設立されたとのことである。

今年で創業46年、創社16年の社歴を有し、現在は医書出版の大手5社にかぞえられ、

- 1) プライドと責任をもつこと
- 2) 自己の成長をはかること
- 3) 互恵の精神をもつこと

をモットーに歯学・医学・栄養・理療などの書籍・雑誌の出版に励まれている。

洋書の業務は、同社が創立された数年後の昭和28年初頭、読者のサービスの一環としてアメリカ医師会で発行している全雑誌を輸入販売しはじめたことに端を発する。その後色々の問題を乗り越え、現在では書籍は歯学を、雑誌では医学全般を重点的に取扱っている。

近年地方の歯科大学などで展示会を開き、広く歯学洋書を先生に紹介し、歯学界に貢献するなど活発に活躍している。

海外 ニ ュ ー ス

◎ オランダの出版

最近の発表によると、オランダの1966年の総出版点数は1965年の10,193点に対し10,582点に増加した。新刊と重版との比率は1965年に比べ新刊が多少低下している。

	1965	%	1966	%
新 刊	9,009	58.9	5,816	55
重 版	4,184	41	4,766	45
(出版点数の多かった部門)				
言 語 学・文 学	1,682	16.5	1,775	16.7
小 説	1,544	15.5	1,541	14.5
精 密 科 学	981	9.6	1,081	10.2
経 済 学・社会科学	880	8.6	1,039	9.8

経済学・社会科学の二部門は若干上昇を示している。(Bibliographic de la France)

◎ Xerox 社, Bowker 社を合併

Xerox Corporation は R. R. Bowker Company の合併吸収を発表した。Bowker の1967年の総収入は \$ 9,000,000 を越すと見られている。同社は今後 Xerox Education Division の一部となる。Bowker のすべての未払株は Xerox の通常株約42,000株と引きかえに獲得される。

なお、Xerox は今年9ヶ月の収入は\$504,075,816だったと報じている。(Publishers, Weekly, 42—12—24)

◎ Reinhold Book Division

1月1日 Reinhold Publishing Corporation は Chapman-Reinhold, Inc. の別個の子会社となり、社名を Reinhold Book Corporation と改める。

◎ 西独の書籍輸出入額

ベルゼンブラットの発表によると、西独の書籍類の1966年度の貿易は

輸 入 (千マーク単位)

年 代	書 籍	新聞・雑誌	子供絵本	楽 譜	地 図	合 計
1 9 6 6	100,590	25,826	1,742	973	4,390	133,521
増 減 (前年比)	+13.8%	+27.3%	- 9.6%	- 9.3%	+ 6.7%	15.3%

輸 出 (千マーク単位)

年 代	書 籍	新聞・雑誌	子供絵本	楽 譜	地 図	合 計
1 9 6 6	208,380	156,865	1,903	5,427	7,798	380,188
増 減 (前年比)	+12.4%	+12.3%	+10.7%	20.6%	+24.7%	12.4%

書籍は輸出入とも増加している。(Börsenblatt)

(紀伊国屋書店提供)

NEWS 欄

- ◆ 米国 Snyder 社 Wholesale Manager の Mr. Harold M. Wiggins 12月中旬来日。
- ◆ 西独 Bechtle Verlag の Mr. Richad Bechtle 12月下旬来日。
- ◆ スイス Office du Livres の Mr. Jean Hirschen は 1月中旬訪日予定。

お知らせ

来る2月1日より次の通り住所並に電話番号変更の通知がございました。お手許の会員名簿の訂正をお願い致します。

丸田洋書貿易株式会社 東京支店

新住所 東京都文京区湯島2〜2〜1 深沢ビル

新電話番号 (881) 7604

The Autobiography of Bertrand Russell
1914-1944

George Allen & Unwin



The
Auto-
biography
of
Bertrand
Russell
1914-1944
Volume II

*to be published in February
about 42s net*

George Allen and Unwin Ltd,
JOLLEY & BRASH LIMITED

昭和43年1月 通巻第9号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 電話 271-6901
 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル 電話 371-5329